

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2019年 9月 17日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局 教育学研究科

職 名 講師

氏 名 安藤 幸

助成の種類	平成31年(令和元年)度 ・ 国際会議開催助成		
国際会議名	次世代の市民的社会参画のあり方～インドネシア・ソロ・フォーラム Civic Engagement 4.0 Solo Forum		
開催期間	2019年8月19日 ～ 2019年8月23日		
開催場所	インドネシア・ソロ(スラカルタ) The Sunan Hotel		
参加者	総数 537名	内 訳 欧米やアジア諸国から、高等教育機関の研究者や大学生・大学院生、NGOや財団関係者、一般市民、地方自治体関係者(市長)など	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	事業に要した経費総額	10,060,000 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) タイ・チュラロンコン大学、国際交流基金アジアセンター、フォード財団、インドネシア・スラカルタ市、特別非営利活動法人アユース仏教国際協力ネットワーク	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費交通費	3,800,000	231,848
	会場・会議費	1,500,000	750,000
	同時通訳機材・上映機材など	600,000	0
	印刷製本費・広報など	500,000	0
	通信運搬費など	80,000	0
謝金	600,000	0	
消耗品費	80,000	18,152	
その他雑費・人件費など	1,300,000	0	
レセプション・エクスクーション費など	600,000	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団からの多大なるご支援により、充実した会議を遂行することができました。この場を借りてお礼を申し上げます。主催者が口頭や配布物、掲示などで、本助成について紹介・言及したこともあり、本学の研究教育活動支援について多くの参加者から質問を受けました。本フォーラムにご支援いただいたことは、本学の国際的なプレゼンス向上に少なからず貢献できたと確信しております。今回の成果をもとに、来年はタイ・バンコクにおいてフォーラムの開催を予定しています。今後よりいっそうのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。要望としましては、イベント広報や報告用(イベントHP、PR・広報用配布物、プログラム、報告書など)に協賛者紹介として使用する貴財団のロゴやバナー(日本語版、英語版)の作成を、ぜひともご検討いただきたいということです。文字での記載も可能ではありますが、ロゴやバナーがあれば、さらに多くの人々の目に留まりやすくなり、貴財団の支援活動を印象付けられると思います。		

成果の概要 / 安藤 幸

「次世代の市民的社会参画のあり方～インドネシア・ソロ・フォーラム」は、2019年8月20日から23日の日程で、インドネシア・ジャワ州ソロ（スラカルタ）市において開催された。本フォーラムは、東南アジアに持続的な社会を実現するため、知を共有し、共に創造していくことを目的としている。

プレおよびポスト・イベントは、本フォーラムの運営・進行当事者（主要メンバーである主催者・共催者および分科会リーダー）のみで実施された。パブリック・フォーラムと市長シンポジウムには、欧米やアジア諸国の高等教育機関の研究者や大学生・大学院生、NGOや財団関係者、一般市民、さらにはインドネシアとタイの地方自治体から市長などが参加した。（参加者総数は537名）

本フォーラムの開催日程と詳細は、下記のとおり。

2019年8月20日：プレ・イベント

08:00 – 13:00

フィールド・トリップ

- Laweyan 地区（バティック文化・伝統の継承）
- ソロ市内中心部（ジャワ島中部の都市形成）
- Kali Anyar 地区（水資源管理と都市計画）

15:00 – 16:30

主催者、共催者および分科会リーダーの打ち合わせ

19:00 – 21:00

開会セレモニー



Laweyan 地区にはバティック
工房やショップが立ち並ぶ



スラカルタ市長との記念撮影

午前のフィールドトリップでは、ガイドの説明を受けながら、各地域の社会課題について学ぶ機会を得た。午後からは、主要メンバーの打ち合わせを行い、開催趣旨や運営・進行などを確認した。続いて行われた開会セレモニーでは、スラカルタ市長から歓迎を受け、本フォーラムへの支援を約束された。

2019年8月21日：パブリック・フォーラム

08:30 – 09:30	プレナリー・セッション 1 (基調講演 3 名) <ul style="list-style-type: none">● 市民的社会参画～革新的なプラットフォームづくり
09:30 – 10:00	プレナリー・セッション 2 (統括者 3 名による概要説明) <ul style="list-style-type: none">● ジョグジャ、バンコクからソロへ
10:30 – 12:30	分科会 1 <ol style="list-style-type: none">1. 人々の移動とうつろいゆく東南アジア社会2. 持続可能な都市形成に向けて3. 教育 4.0: 知の創造・イノベーション・市民参画4. 廃棄物処理を越えて
14:00 – 16:00	分科会 2 <ol style="list-style-type: none">5. 回復力としての記憶：災害体験の継承6. 市民的社会参画7. 都市近郊型農業の可能性8. 危機の時代に充実した生き方をするために
16:15 – 17:15	プレナリー・セッション 3 <ul style="list-style-type: none">● 統括者および分科会リーダーとの討論とまとめ



活気に満ちた会場



主催者代表からの挨拶

まず、マイケル・ノースコット氏（イギリス・エジンバラ大学名誉教授およびインドネシア・ガジャマダ大学教授）、メラニー・ブディアンタ氏（インドネシア大学教授）およびアンギー・ユディステシア氏（Thisable Enterprise 最高責任者）が基調講演を行った。プレナリー・セッション2では、これらの基調講演をふまえて、本フォーラムのフレームワークが提示された。分科会はワークショップ形式、グループワーク形式、講演形式などで行われ、都市社会が抱えるさまざまな課題と取組が議論された。（なお、筆者は、分科会1.3「教育4.0」のリーダーを担当した。）プレナリー・セッション3では、討論のまとめが行われた。

2019年8月22日：市長シンポジウム

08:30 – 12:00	円卓討論（市長7名による発表と討論）
13:15 – 14:30	プレナリー・セッション1（発表者5名） ● 社会包摂的かつ持続可能な社会
14:45 – 16:30	プレナリー・セッション2（発表者5名） ● 信仰と人間の尊厳
16:45 – 17:30	総括



市の取組を紹介する市長



各地から集まった市長

まず、インドネシアとタイの市長がそれぞれの市の特徴や社会課題と取組について発表を行った。続くプレナリー・セッションでは、研究者や実践者が発表し、市長および参加者との活発な意見交換が行われた。

2019年8月23日：ポスト・イベント

10:00 – 12:00 主催者および共催者会議

12:30 – 17:00 フィールド・トリップ



今後に向けた打ち合わせ



ソロ郊外のコミュニティを訪問

午前中は、主要メンバーで、本フォーラムの振り返りと今後に向けた打ち合わせを行った。午後には、スラカルタ郊外の古刹（チェト寺院とスクー寺院）を訪問したほか、エッセンシャルオイル工場を見学し、伝統文化の継承と地元産業活性化のための取組について知見を深めた。

[まとめ]

持続的な社会を目指すためには、国家や企業の努力のみに頼ることなく、市民の社会参画が不可欠である。地域社会で培われた多様な視点、経験、営みから得られる「知」を共有し、グローバル社会の問題解決に向けた取組に反映させることが期待されている。

今の社会は、ますますデジタル化している。また、ICT技術の発展により、遠隔会議が可能となり、膨大な情報も時空を超えて瞬時に入手可能となった。しかしそれと同時に、私たちは溢れる情報の取捨選択を迫られるようになり、自分とは異なる「多様なもの」「異質なもの」を排除する風潮が生まれている。そのような時代であるからこそ、人と人をつなげ、顔を突き合わせて、率直な意見を交わすことのできる機会や場の確保がよりいっそう重要となっている。

本フォーラムは、一過性のイベントではなく、通過点として位置付けられている。これまでに、数ヶ月ごとの運営会議と、国際会議（2017年インドネシア・ジョグジャカルタでのフォーラム；2018年タイ・チュラロンコン大学におけるバンコク・フォーラム）を開催し、ビジョンの確立と、パートナーシップ形成に

注力してきた。研究者と実践者を中心に行われてきた議論に、本フォーラムでは市長を交えて意見交換を行うことができた。これらの成果をもとに、2020年には第2回バンコク・フォーラムの開催を予定している。今後も、社会変革の構想の実装化に向けて、戦略的パートナーとの対話やアクション、取組を展開させていく。

本フォーラムの反響は大きく、事前登録の時点で、当初予定していた一般参加者総数の250名を大幅に超えたため、あえなく受付を締め切ることとなった。Facebookを用いたライブ配信を行ったことで、会場に来られない人々にも参加の機会を提供した。これらの動画は後からでも視聴でき、開催記録としても活用できる。また、本フォーラムでは、より多くの参加者が積極的に関わられるよう、バリアフリー化の工夫が随所にほどこされた。例えば、インドネシア語と英語の同時通訳および手話通訳の導入、車椅子参加者への支援、宗教的配慮（食事メニューの多様化、会議時間の調整、祈祷室の確保）である。さらにはSli.doを用いて参加者の意見を逐次確認し議論に反映させたことで、多様な背景を持つ参加者間の相互理解を促し、議論を活性化させることができた。これらの革新的な取組により、本フォーラムは新たな知を協働で創造することに成功したといえる。

[本フォーラムの公式ホームページおよびSNSページ]

<https://www.civicengagementforum.net/solo/>

<https://www.facebook.com/civicengagement2019/>

[現地報道記事（インドネシア語）]

- <https://bhayangkara-lipsus.com/2019/08/welcome-dinner-civic-engagement-4-0-international-forum/>
- <http://www.galamedianews.com/nasional/231933/wali-kota-dan-bupati-hadapi-tantangan-berat-yang-unik.html>
- <https://www.solotrust.com/read/21412/Solo-Jadi-Tuan-Rumah-Civic-Engagement-40-International-Forum>
- <https://www.timesindonesia.co.id/read/226223/20190822/195855/kepala->

[daerah-seindonesia-diskusikan-tantangan-global-di-solo/](#)

- <http://surakarta.go.id/?p=14186>

[謝辞]

本フォーラム開催にあたり、助成していただいた京都大学教育研究振興財団に、あらためて深謝の意を表します。

以上